

令和7年度 大学院医学研究科博士課程 及び
医学院修士・博士課程学位記伝達式告辞

本日ここに学位記を授与される皆さん、おめでとうございます。北海道大学大学院医学院の教職員を代表して、心よりお祝いを申し上げます。このたび、医学院修士課程15名、医学研究科・医学院博士課程42名の合計57名の皆さんが学位を取得されました。皆さんが研鑽に励み、修了を迎えたことに敬意を表します。

皆さんは、大学院では指導教員のもと、自ら設定した課題について、実験し、あるいは調査し、議論して、結論を導き出したと思います。すなわち、新しい知を自ら生み出すということに挑戦したと思います。決してたやすい道のりではなかったと思いますが、学問の本質に触れることができ、感動や喜びを感じることができたのではないかと思います。皆さんは、研究成果を学位論文としてまとめ、主査・副査の審査に合格し、学位を取得しました。皆さんの研究成果は、今後、人類の共有の知の財産として、永く世の中に残るものとなります。

北海道大学の開校は、1876年の札幌農学校に遡り、今年に創基150年の年です。札幌農学校では、開校当初から欧米の文化と科学技術を導入し、外国人教師の英語による授業が行われていました。初代教頭ウィリアム・S・クラーク博士は、「be ambitious」の言葉を残し、気高い大志を持つことの大切さを説きました。大きな志をもつ、それは、小さな目標、を達成しながら大きな夢に向かっていく、その心がまえのことですが、この精神は開校以来北海道大学に受け継がれてきたものです。皆さんの中にもbe ambitiousの精神が受け継がれていることと思います。これからは、北海道大学の学位を取得したものとして、高邁な大志をもつ大切さを後輩に伝えて行ってください。

現在、私達人類は数多くの課題に直面しています。皆さんは今後、それぞれの進む道において、予測のつかない状況に直面した際、自らの力で解決することが重要です。未来を予測し、問題解決することは、皆さんが学んだ学問の力で社会に貢献することで、皆さんの使命でもあります。

北海道大学大学院医学院は常に、皆さんと共にあります。大学院修了は大学との別れではなく、新たな協働の始まりです。どうぞ、皆さんには、これからも、歴史と伝統のある本学の成長・発展に積極的に関わっていただきたいと思います。皆さんがそれぞれの分野で大いに活躍されることを祈念して、私の告辞とします。

令和8年3月25日

北海道大学大学院医学院長 田中 伸哉